# どうして「コミュニケーションは大事」とお考えですか？

ある県の教育センターで、現場の先生方に「子どもと係わり合うことの意味」をテーマに話す機会を得た。
受講の先生方から次のような初メールをいただいた。

【　「コミュニケーションは分かり合うためではなく、すれ違いをうめるために続ける。」という阿部先生の言葉に、ハッとしました。
今まで、人とのかかわりでうまくいかなかったときを思い出すと、私の気持ちのどこかに言わなくてもわかっていてほしい／わかるだろう、という傲慢さがあったように思います。
この言葉を聴くことができて、本当に良かったです。　】

【　先生のお話を聞いて、たくさん心を打たれました。
コミュニケーションの意味、係わり合うということ、子どもと向き合うということ、オ母サン・・・本当に教師としてやっていけるのだろうかと不安にもなりました。
しかし、最後には、もっと子どもと深く係わり合いたいと思うことができました。

そして何より「質問できる人」になりたいと思いました。
私は、周りの目ばかり気にしてきたように思います。
こんなことも分からないのかと思われることが、ダメなことだと思っていました。
でも、先生の言葉を聞いて、「聞かなきゃ損」ってことに気づきました。
これからは、疑問に思ったことはどんどん聞いていこうと思いました！！　】

誰でも日常的に誰かとコミュニケーションしているだけに解っているような気がしているが、「じゃあ、コミュニケーションは何のために大事かな？」と聞くと、案外答えられないもの。
誰もが戸惑い、迷いながらもコミュニケーションしていることでは、みんな同じと思う。

自分は、「生きる→人間関係→コミュニケーション」と考えるだけに、コミュニケーションとは想いを伝え合い、行動を読み取り合い・意味づけ合い、互いに生きることを輔け合うことでもあることを、日常的にも少し意識し、コミュニケーションの仕方に自らの工夫があってもいいのでないかと常々思っている。

それだけに、コミュニケーションとは、"Not doing, but being"を意識しつつ、相互交渉であることから、相手の土俵に上って質問上手にも心懸けるように、事例に触れながら講義等では話している。

さて、あなたは、どうして「コミュニケーションは大事」とお考えですか？
参考までにお聞かせください。

阿部幸泰　　（2008 年 1 月 29 日　記）